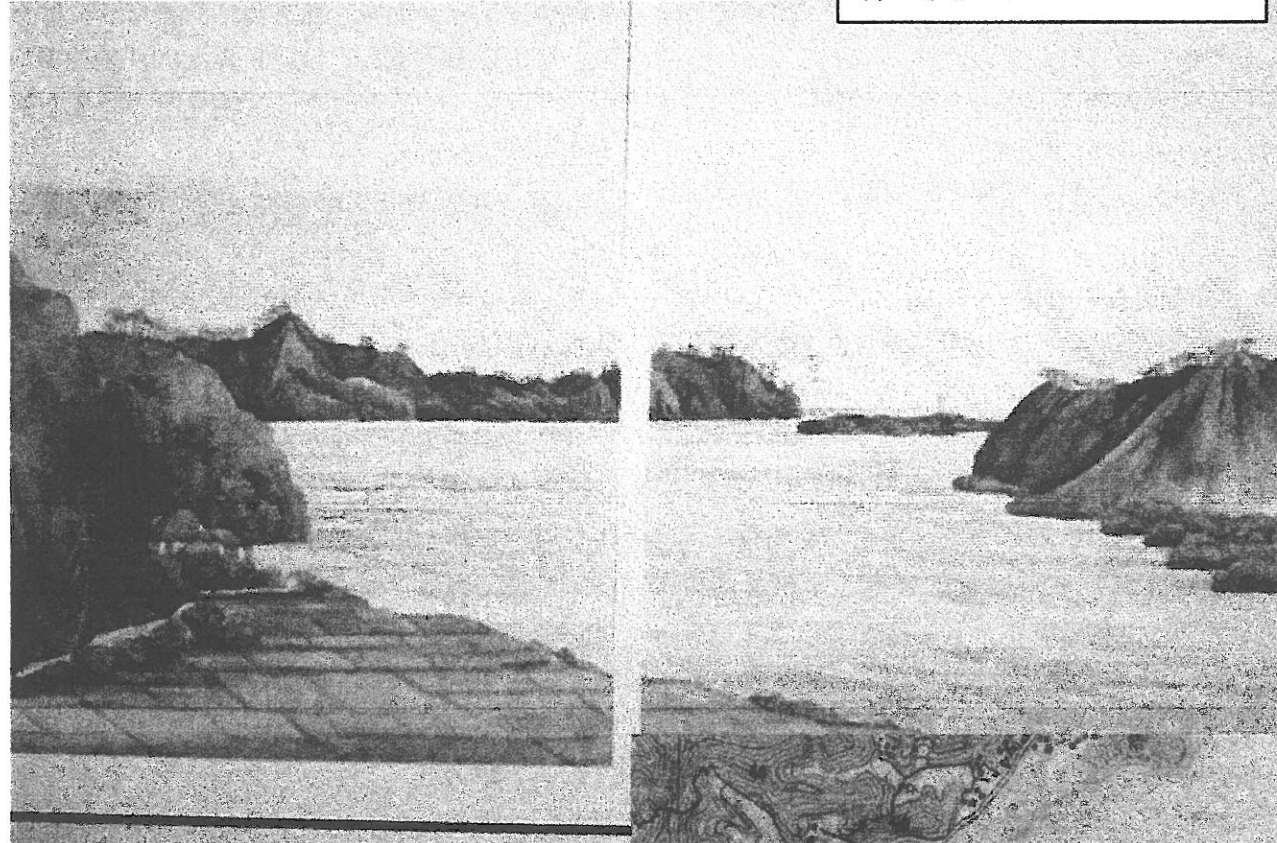


故(ふる)きを温(たず)ねて
新しきを知る



上の絵は、「公余探勝図」に掲載されている原画のコピーです。

絵の中で右の山は披露山、中央部分に鏡摺山を右端に桜山が連なっています。左の山は久木1丁目に突き出した山でしょう。中央平地部分ははっきり区画のある部分とぼんやりとした区画の部分に分けられるが、前者は畑で、後者は田圃でしょうか。海のようにも見えるが中央部分に道と歩行者が描かれているので海ではないことがわかります。人家は左の久木側に3軒、右の披露山の下に4軒に描かれています。

鏡摺山と披露山と思われる山の間に島のように見えるのが新宿です。

右の地図は絵に描かれた迅速測図の場所を想定して切り取ったものです。但し方向を同じにするために地図は南北逆方向にしてあります。

視界から見て、この絵は久木5丁目付近の山の上からの眺望と想像されます。

(鈴木為之 山の根在住)



久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第5号 (準備会から通算第26号)

発行日 平成29年9月2日

発行所 返子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・民生委員児童委員特集・・・

第4回住民協役員会

8月5日(土) 13:30~15:30・久木

会館で、28名(うち役員13名)が参加して開催されました。主とした審議内容は次の通りです。

1. 民生委員児童委員に関する討議の件

本会を開催する趣旨は以下の通りです。

他市に比較して返子市の高率な民生委員児童委員欠員の対策として、地域に「民生委員児童委員推薦準備会」を設置したいとの提案がありました。それを考える前に、地域としてより基本的・実践的な面で、民生委員児童委員の活動と地域の協力の在り方について、考えておくことがあるのではないか、ということが開催の趣旨です。

大きな課題であり限られた時間の中での討議で結論を出すには至りませんでした。それぞれの立場や環境にある方々から、有益な提案や発言があり、実りのある会となりました。

会議は、①事務局からの経緯の説明、②市から現状の説明、③民生委員児童委員から実状と要望、④地域から取組の説明、⑤討議とまとめ、の順で行われました。

① 事務局から経緯説明・・・

前段の趣旨説明の通りです。

② 市・社会福祉課から現状説明・・・

定員80名に対して欠員は14名、欠員が出ている地域に偏りがある。後任が決まらず、活動が理解されていない、推薦母体の自治会がない地域がある等、原因となっている。

③ 4人の民生委員児童委員から実状と要望・・・

② 民生員児童委員は地域のパイプ役なので、欠員になるとご近所が困る。他市には欠員を埋める組織がある。当市でも欠員を補充する組織を作してほしい。

③ 民生委員児童委員がいない地域は困っている人が出ている。民生委員児童委員の役割を多くに人の理解してもらう努力が必要だ。

④ 民生委員児童委員の仕事は・住民への寄り添い・福祉活動・公的福祉へつなぐ・住民の代弁。その他災害時の対応、地域を巡回しての情報収集等多岐にわたる。関連法律の改正が多く研修が負担、個人情報をつかむのが大変である。住民協の中に推薦組織が出来るのが望ましい。

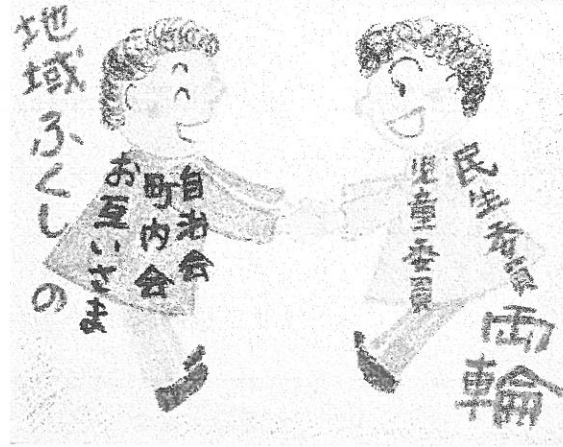
⑤ 地域の要支援者と必要な支援のパイプ役となっている。行政からの依頼事項も多い。お互いさま活動(地域安心生活サポート事業)と一体化して活動をしており大いに助けられている。自治会を含めた地域の協力なくしては成り立たない。一人で情報収集するのは困難である。

④ 4地域から取り組みの説明・・・

② お互いさま活動で民生委員、地域包括センターと定期的に会合をもって情報交換並びに、高齢者(75歳以上)対策を民生委員と連携して行っている。

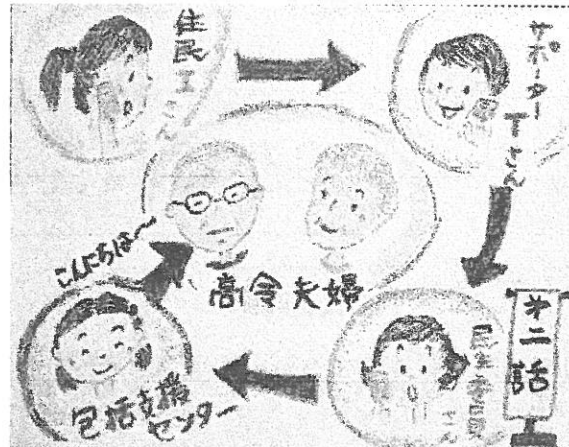
③ 3年前より地域を分けて高齢者(対象120人程度)見守り隊を結成して民生委員と連携。

二人で7～8人が見守り対象。但し守秘義務の点から他のグループとの情報交換は行わない。
 ◎ お互いさま活動に民生委員が参加して地域と民生委員が一体化して活動を行っている。お互いさま活動が普及して、一般住民からの情報



がサポーター、民生委員、地域包括センターのルートで専門機関につながる例もある。(イラスト参照)

④ お互いさま活動の中で民生委員を含めたサポーター会議やサロンの開催をしている。



⑤ 討議・・・

⑧ 民生委員の負担の減少；

- ・各地域で方法や程度の差はあるが、地域と民生委員の間で情報提供等の協力を行っている。
- ・お互いさま活動等を通して民生委員活動のサポーターの役割を担っている。
- ・他市の例では、行政主導で鹿沼市では市民に「シニアライフみまもり隊」を委嘱して、高齢者の見守りや買い物支援等を通して民生委員と連携している。鶴見区では民生委員に10名のサポーターをつけている、横須賀市でも同様の例があるの紹介があった。
- ・行政の色々な課から依頼があるが、窓口の整理が必要ではないか。
- ・時代の変化に対して民生委員の数の調整が必要ではないのか。

⑥ 適任者の育成；

- ・関心がないとなり手は出てこない。啓発や広報が必要である。
- ・福祉サポーターやおたがいさまサポーターから適任者が育っていく。他市の例では鹿沼市の「シニアライフみまもり隊400名」は民生委員の後継者育成と考えている。

◎ 広報・啓発；

- ・民生委員の役割をもっと多くの人に知ってもらう必要がある。

- ・PTA や子育て世代の啓発、逗子広報での特集が必要ではないか。
- ・市配布のパンフに地域との連携等、民生委員児童委員が活動しやすい環境整備について記載があった方が良い。

④ その他；

- ・報酬を見直したらどうか。
- ・行政が構造的問題としてとらえねば解決が難しい。

⑥ まとめ・・・

皆様の報告やご意見の中から、事務局として一つのまとめをしておきました。

⑧ 民生委員児童委員の負担を軽くする地域の環境づくり・・・

自治会・町内会と民生委員児童委員が一つのテーブルを共有できる場を作ることから始まって、役割を分担していく仕組みづくり。市内で始まっている地域安心生活サポート事業（お互いさま活動）やこれに類する活動を充実させていく。

一つの先行事例として、山の根自治会と地区民生委員から報告のあった「お互いさま山の根」として、地域が民生委員活動と一体化してサポートすることにより、大いに負担軽減に寄与し

ている例が挙げられる。

他市では行政主導の例として、鶴見区や横須賀市のサポーターの例、鹿沼市のシニアライフみまもり隊が挙げられた。

⑥ 適任者の育成・・・

地域と民生委員児童委員が同じテーブルにつき、役割を分担したりサポートすることにより

2. 住民協ひろば特別号編集に関する件

東会員から進捗状況の説明がありました。寄稿の未着の部分、広告の未入の部分があり、

役員会からのお知らせ

①会計処理で自主財源を特別勘定とする件・・・

今後予定される広告料収入等自主財源を交付金と区別し、特別勘定として処理することを考えています。改めて監査と協議の上適当な時期に提案を予定します。既に設定されている交付金収入を原資とする予算を本勘定とし、決算にて本勘定にマイナスを生じた場合、特別勘定から繰り入れることとなります。

②会員の皆様との意見交換会開催の件・・・11月度役員会を、会員の皆様との意見交換の場と

民生委員児童委員への理解が深まり、その結果として後継者が育成される。地域のサポーターを含めて福祉実践者（理解者）を増やしていくことが大切である。その延長線上に「推薦準備会」がある。行政主導の例は鶴見区や鹿沼市の例が挙げられる。

8月度連絡会（8月21日）までに埋めること。印刷・配布の方法について検討・確認することとなりました。

することを予定しております。具体的な方法は今後の役員会、連絡会等の場で詰めてゆきます。

③鹿沼市自治会連合会研修の件・・・7月27日、14:40～16:30、市役所5階会議室
 来訪者 30名、住民協より田倉、小林、鈴木が出席。来訪者と住民協の間で、約1時間真摯な応答がありました。

（注）鹿沼市は、本市と同時に「安心生活創造事業」モデル市となり、「シニアライフみまもり隊」制度を作り、市民サポーター（現在400人）が民生委員児童委員と協働で、地域の高齢者の見守り等の活動を行っている。

編集後記

今月号は民生委員児童委員特集号になりました。よく言われる高齢化社会、格差社会への変化は、地域の福祉に量的・質的に負担の増加を齎しています。地域の福祉の一端を担う民生委員児童委員の、やりがいと負担のバランスが負担の側に傾き、欠員の問題の大きな原因の一つになっているのではないかと考えています。福祉を地域全体の問題としてとらえて、地域の福祉の層を厚くしていくことが、課題解決の本質と考えます。まちづくりの基本にかかわることです。

事務局長 鈴木為之 (tame_yuki@ybb.ne.jp)

《トピックス》

関恵梨子様の日本画；（第16回かながわシニア美術展）横浜市民ギャラリーで開催された同展の日本画の部で、住民協役員の関恵梨子様（久木3丁目在住）が、「かながわ福祉サービス振興会賞」受賞の榮譽に輝きました。「ネコノミクス」の表題で、色とりどりの花の中で黒ネゴが幸せそうに輝いています。カラーでご覧いただけないのが残念です。

